

2020年度事業報告（案）

国分寺台地区行動計画（2018年度～2021年度）

基本理念 ともに支え合い

ともに明るい未来を育む 国分寺台

基本目標1 支え合いのある地域づくり

○子育て家庭の支援強化

子育てサロン事業

活動状況	開催回数 6回 参加者数延べ 43人 支援者数延べ 15人 開催時間延べ 6時間30分 準備時間延べ 6時間30分
場 所	国分寺公民館・国分寺台自治会集会所
事業内容	地域に在住する乳幼児を持つ家庭を対象に、親同士の語り合いの場や、学習の機会を提供する。 傾聴講座を受講したスタッフが子育ての悩みなどを丁寧に聞くことにより、育児への不安やストレスを軽減する。
成 果	コロナウィルス感染症拡大緊急事態宣言発令による活動自粛要請に伴い、活動回数が激減したが、参加者とのLINEによる相談対応などで、子育ての悩み等の重篤化を防ぐことができた。 開催日には、参加者同士がゆっくり話せる時間を確保したことにより、同じような悩みを誰でも持っていることを知り、子育ての不安や孤立感の解消に役立った。また、人材育成事業や相談支援事業との連携により、スタッフ養成講座の充実が図れた。 サロンで知り合ったことをきっかけに参加者同士がLINE等の通信手段を活用して連携意識構築を図ることができた。 子育て家庭支援員によるチラシ配布だけでなく、スタッフがチラシを携帯して子育て中の親に手渡ししたことから、新規参加者が増加した。
今後の課題	会場まで通えない家庭のために、開催場所の検討が必要となっている。 会場の広さに対して参加者が多すぎると感じる日があり、開催時間の延長や実施回数の適正化も今後の課題である。

地域食堂事業

活動状況	開催回数 4回 参加者数延べ 28人 支援者数延べ 32人 研修1回 開催時間延べ 11時間 準備時間延べ 21時間
事業内容	地域在住の小・中学生と独居高齢者を対象に月1回の食事を通して、異世代間の交流を図り、相互の見守り体制を構築する。
成 果	近年社会的に注目を集めている事業であることから、視察見学が多数あり、この事業の重要性を認識できた。 実施目的が分かりやすいことから、ボランティア参加者の増加や食材寄付もあり、社会関係資本拡大に繋げることができた。
今後の課題	公民館を会場としていることから、参加者数に制限があり、開催回数や開催場所の拡大を検討する必要がある。 ボランティアスタッフの増加により、研修を適時行い、事業目的の共有が必要となっている。

○高齢者支援の充実

ふれあい・いきいきサロン事業

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
成果	長期にわたり継続してきた事業のため、参加者とスタッフの日常的な繋がりがから、茶話会会場以外の場所での声掛けなどで、孤立感を軽減することができた。 3小学校区小域福祉ネットワーク、民生委員児童委員連絡協議会との連携により、災害時用飲料水と非常食を配付することができ、地域とのつながりを感じてもらうことができた。
今後の課題	第2層協議体との連携により、地域づくりの情報共有、情報発信に力を入れることが大切である。 認知症発生が急増し、孤独死件数も増加したことから、コロナ禍においての見守り体制の構築を検討していくことが必要となった。

高齢者地域支え合い事業（第2層協議体）

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	地域福祉に関する問題は複雑化してきており、高齢者、障がい者、子ども等の分野に分かれた体制では対応しきれなくなっていることから、支援体制の一元化とニーズに合った支援体制の早期構築が望まれる。

○障がい者（児）支援の充実

ふれあい・はつらつサロン事業

活動状況	開催回数 1回 参加者数延べ 4名 支援者数延べ 2名
	開催時間延べ 1時間30分 準備時間 1時間
場所	国分寺公民館
事業内容	地域の誰もが参加できるバリアフリー型事業を開催し、茶話会やバリアフリースポーツを通して、ノーマライゼーションの理念を浸透させ、共生型社会の構築を目指す。
成果	バリアフリーサロンの拡大事業として実施したコンサートは、早期からの参加申し込みがあり、地域に定着してきた。
今後の課題	コロナウィルス感染症拡大状況により、会場の広さや感染予防体制の徹底が重要となり、スタッフ増員が必要となっている。 障がいのある方の参加が増えたことで、開催時期や会場などへの配慮が必要となり、事業計画や会場押さえを早い時期に検討する必要があると感じた。 また、障がい者への地域理解をより深めるため、現状などの話をする座談会的な集まりも必要と感じる

○歳末助け合い運動の推進

地域交流事業

活動状況	バリアフリーコンサート 1回 参加者数 14人 支援者数 6人
	活動時間 1時間30分 準備時間 3時間
場 所	国分寺公民館
事業内容	地域の誰もが参加できるバリアフリー型のコンサートを開催し、ノーマライゼーションの理念を浸透させ、共生型社会の構築を目指す。
成 果	歳末助け合い地域福祉支援事業として障害をもつ方たちも安心して参加できる雰囲気づくりができたことから、長期ひきこもりの方の参加申込みもあり、様々な人の社会とのつながりのきっかけづくりとなった。
今後の課題	ひきこもりの方が、安心して参加できたことで、今後社会とつながりを持てるよう支援していくには、行政を含めた組織との連携も強化していく必要がある。

基本目標2 生活支援体制づくり

○総合的相談支援体制の充実

相談支援事業

活動状況	相談件数 75件 支援者数延べ 76人 活動時間延べ 65時間 準備時間延べ 38時間 支援会議 18回 内容 ◆子育て 39件 ◆不登校 3件 ◆虐待 2件 ◆高齢者 25件 ◆障がい者 6件 ◆貧困 2件◆ひきこもり 1件（重複有） 会議 18回 専門機関連携 6回
場 所	各サロン会場・地区社協事務所・相談者宅
事業内容	各サロン会場や事務所にて、子育ての悩みや高齢者の不安、障がい者の困りごとなどを聞きとり、地域課題を見つける。
成 果	相談者それぞれの悩みや問題を、スタッフが丁寧に傾聴することにより、地域の現状や課題を見つけ出し、各事業の見直しや発展へとつなげることができた。また、課題解決のために行政機関や地域の他団体とも連携を取ることができ、ネットワーク構築へとつながった。 高齢者に関する相談が増加し地域としての支援体制について考える良いきっかけとなった。 専門機関との連携では、情報の共有、のりしろのある支援、支援チーム構築等の必要性を感じることができた。 子育てネウボラセンターが設置された結果、乳幼児に関する相談窓口が一元化され、相談者支援者双方にとって解決の糸口ができた。
今後の課題	相談内容が、複雑になり、専門的知識や支援チームを構築していく必要性を感じる。長期にわたる支援が必要な事例が多くなり、人材育成強化のための研修とケース別の対応を考えるケース会議開催が緊急の課題である。 他地区への転居者支援を、支援者との人間関係や相談者の家庭状況などから、突然打ち切るとは状況の悪化を招く場合もあり、他地区との連携、のりしろ部分を含めた支援体制の構築が必要と考える。 1件の家庭が抱える問題が、多種多様化していて、行政窓口が多数になることが多く、総合支援窓口の設置が望まれる。 地域住民からの認知症高齢者の相談が増え、地域包括支援センターや民生委員との協力強化が今後重要となる。 情報の秘密性と早急な対応が必要なケースが増加しているが、連携強化の視点を入れた、個人情報保護の考え方を再考する必要がある。

基本目標3 安心・安全な地域づくり

○子ども防犯体制の強化

子ども防犯事業

活動状況	開催回数 1回 参加者数延べ 336人 支援者数延べ 7人 活動時間延べ 10時間30分 準備時間延べ 6時間 参加者：辰巳台西小学校全児童・教員
場 所	辰巳台西小学校
事業内容	小学校児童と教員を対象に、体験型安全教育支援機構の清永奈穂氏を講師に招き、体験型の安全教室を開催する。
成 果	今年度は、コロナウィルス感染症拡大状況から地区小学校での実施が見送りとなったが、他地区小学校からの依頼で、千葉県教育委員会の資金協力もあり、辰巳台西小学校での実施となった。昨年度人材育成事業受講者である『体験型安全教育指導士補』のメンバーが参加できた。
今後の課題	地区住民の参加を機に、地域での防犯指導者を育成し、学校での防犯教室開催を定期的実施していく必要を感じる。

○安心生活見守り体制の強化

ふれあい・いきいきサロン事業（再掲）

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
成 果	長期にわたり継続してきた事業のため、参加者とスタッフの日常的な繋がりから、茶話会会場以外の場所での声掛けなどで、孤立感を軽減することができた。 3小学校区小域福祉ネットワーク、民生委員児童委員連絡協議会との連携により、災害時用飲料水と非常食を配付することができ、地域とのつながりを感じてもらうことができた。
今後の課題	第2層協議体との連携により、地域づくりの情報共有、情報発信に力を入れることが大切である。 認知症発生が急増し、孤独死件数も増加したことから、コロナ禍における見守り体制の構築を検討していくことが必要となった。

高齢者地域支え合い事業（第2層協議体）

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	地域福祉に関する問題は複雑化してきており、高齢者、障がい者、子ども等の分野に分かれた体制では対応しきれなくなっていることから、支援体制の一元化とニーズに合った支援体制の早期構築が望まれる。

○災害支援ボランティアの育成

災害支援ボランティア事業

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	災害の種類により、情報発信、避難支援、避難所運営などの状況変化が予想されることから、災害状況に合わせたボランティア訓練が必要となっている。

基本目標4 連携・基盤が堅固な地域づくり

○連携・協働体制の確立

連携・協働体制づくり

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	各団体や個人が、地域への関心を高め、問題解決のための課題を見つけ出すための、協力体制構築へ向けての取り組みを強化する必要がある。

地区行動計画策定・推進事業

活動状況	コロナウィルス感染拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	地域課題解決のための事業整備が必要だが、市原市地域福祉計画、市原市地域福祉活動計画が事前に出来上がっている中、地域独自の発展的事業実施には財政的に問題があり、今後はボトムアップのしくみの構築が必要と考える。 地域福祉に関する問題は複雑化してきており、高齢者、障がい者、子ども等の分野に分かれた体制では対応しきれなくなっていることから、支援体制の一元化とニーズに合った支援体制の早期構築が必要となっている。

○小域福祉ネットワークの支援

活動状況	コロナウィルス感染症拡大状況悪化に伴い、今年度は未実施となった。
今後の課題	各団体や個人が、地域への関心を高め、問題解決のための課題を見つけ出すための、協力体制構築へ向けての取り組みを強化する必要がある。

○人材育成の推進

人材育成事業

活動状況	養成講座 1回 参加者数13人 支援者数2人 開催時間延べ 2時間 準備時間延べ 1時間 申込参加者数 17名
場 所	国分寺公民館
事業内容	表現教育研究所の大塚 愛氏を講師に招き、子どもの月齢に合わせたわらべ歌遊び講座を開催し、子どもの発達と愛着行動について学ぶ。
成 果	地域で子育て支援活動を実践している参加者が、子どもの発達について学ぶ良い機会となり、子育て中の親が楽しみながら子育てに取り組むことができるような支援につなげることができた。
今後の課題	コロナ禍において、実施時間や参加者数の制限をせざるを得ない状況があり、より多くの支援者が受講できる体制を考える必要がある。

○広報・啓発活動の推進

広報・啓発事業

活動状況	他市との連携により南房総地区の子ども食堂・地域食堂のリーフレットを作成し、地域内で配付した。 被災地支援ベルマーク運動に協力
事業内容	国分寺台地区社会福祉協議会の事業や、方針などを広報紙を通して、地域に知らせる。 ボランティア啓発事業として、ベルマーク教育助成財団の被災地学校支援に協力し、地域ボランティア活動としてベルマークを集める。
成果	各事業ごとに開催のお知らせを町会を含む他団体に配布したことにより、地区社協事業への参加者や見学者が増加した。 他市との共同で地域食堂リーフレットを作成したことにより、行政窓口での配布協力を得ることができた。 ベルマーク整理作業を、老人福祉センターで実施したことにより、ベルマークの寄付や作業への協力者が増えた。
今後の課題	各団体の紹介コーナーなどを設け、地域の方が困ったときに、身近に相談相手がいることを知らせていく活動も必要と感じた。また、事業終了後の発行ではなく、事業のお知らせ的に、事前PRも必要と感じ、発行時期を各事業部と調整する必要も感じた。